

経営体の概要

- ・所在地: 青森県弘前市
- ・経営体名: もりやま園株式会社
- ・経営面積: りんご9.8ha
- ・労働力: 本人、常用雇用10名、臨時雇用年間延べ750名

導入技術

Agrion果樹(株式会社TrexEdge製)
(旧ADAM もりやま園製)

- ・樹木1本1本の作業記録をデータ化するシステム
- ・ツリータグにより品種と場所が誰でも分かるようになり、作業時間や作業進捗の把握が容易になる。
- ・樹木への作業のみならず、草刈等の場所全体にする作業などの詳細な管理へも対応可能。
- ・スマートフォンとクラウドのシステムにより、各作業員は画面にタッチするだけで必要な情報が入力可能。



ツリータグ



必要な情報を見える化

導入経緯

- 親からの経営継承時に、植栽されている品種や樹の場所など、経営主しか分からない情報が多く、作業員へのきめ細かな管理の指示が困難となっていた。
- 品種の特定と労働生産性向上を目的に、平成27年にADAMを開発し、導入した。

取組の特徴・効果

- ADAM(現Agrion果樹)の導入で生産工程が可視化されたことにより、以下の効果が出ている。
 - ① 葉摘み作業や山選果(農家の園地や家での選果作業)などは労働生産性が低いことから、作業自体をやめるなど管理作業の見直しにつながった。
 - ② 摘果等栽培管理ごとの作業時間を把握することができ、作業員の能力に応じた形に作業のやり方を見直すことができた。
 - ③ 管理作業の進捗状況を把握することで、作業員に効率的に指示を行うことができるようになった。
- これらの効果により、労働生産性の向上を図るとともに、自分の経営の内容を正確に把握できるようになった。
- また、経営内容の把握によって、従来捨てていた摘果した果実をシードル等の加工品にすることを考案でき、経営全体の改善につなげている。